



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

「子どもの居場所」

移転の年を迎えて

報徳今市振興会館での「子どもの居場所」は2004年6月18日から始まりました。1年目は毎週金曜日のみ、スタッフはすべてメンバーの手弁当で開設されました。

翌年からNPO法人となり、市教委からの補助金を受けることができ、「子どもたち一人ひとりの自主性が尊重され、明るく生活でき、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりと学びの支援」のために、火曜日、金曜日の週2回、「なんとなくのにお」を開いてきました。

一昨年、会館の建てかえ計画を日光市担当課より知らされ、移転先を検討すると同時に、いままでの「週2回」を見直し、より利用しやすいスタイルに変更することにしました。毎日開所により、継続利用者は6名(小学生1名、中学生2名、高校生以上4名)と、支援の範囲が広がっていることを実感しています。いっぽう資金面では今年度の運営を支えるのがやっとという状態。次年度は居場所の借上費なども加算されます。

「子どもの居場所・なんとなくのにお」は、「学校への行きづらさをかかえた子どもが、元気で安心して過ごすことができる居場所」という活動に加え、「保護者および本人が気軽にアクセスできる不登校、進学・進路相談」の窓口にもなっています。このふたつの役割を維持しつつ、「学校に通うことを強制せず、子どもたちに寄り添い、多様な生き方を応援する場」、「登校を強制されることなく、自分を見つめ直す場」という居場所を立ち上げたときのかんがえを大切に、より充実したサポートをめざし、新たな運営形式を模索するべく、日光市教委とも打ち合わせを重ねているところです。



報徳会館の雪景色

「子どもの居場所」を開設して、はじめての冬に撮った1枚 (2005/2)

引っ越し先は会館から徒歩で20分ほど。数日前、春めいた日差しの中、子どもたちと、ゆっくり歩いてみました。田んぼに囲まれ、自然がいっぱいのところですよ。

今年の春は、9年間にわたってお世話になった報徳今市振興会館を離れ、新しい居場所へと移動する仕事があります(荷物の移動は4月第一週を予定)。

居場所の活動に興味をお持ちの方、引っ越し作業にご協力いただける方、ぜひ「なんにお携帯電話」またはメールでご連絡下さい。今後ともみなさまのご援助、ご協力をよろしくお願いいたします。(手塚)

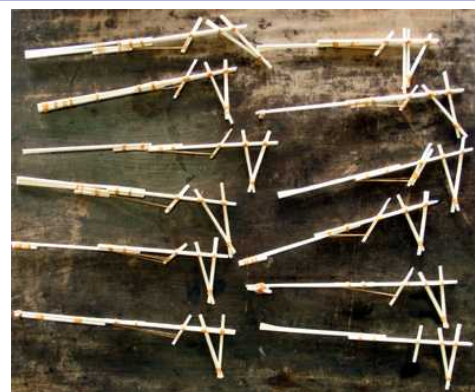
目次

子どもの居場所・移転	1
ヘルパー2級資格に挑戦	2
活動日誌	3
報徳今市振興会館まつり	3
こんな本はいかが? (21)	4

居場所のひとこま

作ったゴム鉄砲をアート風に並べてみました。標的に点数を書いて点取りゲームを楽しみます。

「顔はねらわない」、「近くで撃たない」を守って対戦をやったりもします。けど、つい興に乗り、あぶない場面も…。 (T)



53歳 ヘルパー2級資格取得に挑戦 !!

7月下旬から3ヶ月間 月曜から金曜まで週5日間、午前9時10分から午後4時40分まで、宇都宮の学校に通いました。30年ぶりに学生を体験した感想を書きます。

■ きっかけ

何とかなるだろうと思って始めてはみたものの、毎日朝早く電車に乗り遅れないように出かけるというのは家族を巻き込んでの大騒ぎです。隣の高校生が偉く見えました。

■ クラスメイト

30代後半から最年長の私を含めて5人。障がい者福祉の授業を受けて「自分はアスペルガー症候群かも？」とおっしゃる方を含めて個性派揃い。

■ 知らなかった

自分はまだ親の介護を経験していません。笑われてしまうかもしれませんが、介護やヘルパーの仕事についてイメージはあるものの学んでみた結果、何も知らなかったということに気がつきました。学校に入って初めて要介護度というものがあることによって支援を受けられることや一人ひとりにたくさんの支援者が関わってケアプランが立てられていることなどを知りました。でも、授業を受けながら頭をよぎるのは発達障害を抱える子にもケアプランがあったらいいのにと、今のところは保護者がプランを立てて実行しているのだな、なんてことでした。

■ 授業

案外と？ついていけました。日頃、2階に上がって目的を果たさずに降りてきてしまい、また上がるというような有様の私。何とか授業についていけたのは今までの経験、つまり子育てや仕事などで体験してきたことが役に立って理解できることが多かったからです。

■ とにかく先生が熱い!

先生方は実際に現場で活躍されている施設長やいろいろな部署での経験者の方ばかり。いろいろな失敗談、エピソードから夢までみなさん一日熱く語ってくださいます。魅力的な仕事なんだろうなと感じましたし、今まで経験した学校の中で一番熱心に教えていただいたかもしれません。

■ お得

介護の授業だけではなくキャリアコンサルティングという授業もあって、傾聴のやり方を教えていただいたり、今までの自分と向き合う授業の中で自分の傾向や強みや弱みストレスの解消法などなんとなく感じていたことをあらためて確認することができました。

■ 終わってみれば

毎日通うのは大変でしたが、追試があるテストやオムツの体験、車椅子やアイマスクをしての外出などドキドキの授業を体験して楽しかったのです。無事ヘルパー2級と福祉用具専門相談員の資格を取得し、これからは実際の現場での学びです。この体験に気をよくして次の資格にも挑戦したくなりました。(西尾)

子育て・親育ちの茶話会

場所: 今市報徳振興会館

日時: 毎月第2月曜日(午前10時~12時)

参加費: 300円(お茶代) 次回は3月11日(月)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(連絡は「なんとなくのひろば」へ 090-3227-7079)



カット:ヌメヤーン

子育て・親育ち茶話会

「ん? うちの子、ちょっと心配?」

と思ったら 小・中学校編

「発達障がい」という言葉はマスコミにも取り上げられ、理解が進んでいる反面、親として新しい心配事も出てきます。

思春期の子どもたちへの接し方でお困りのことなどありませんか?

アドバイザー: 帷子顕二郎 さん

日光市教育委員会 発達相談員(臨床心理士)

2013年3月16日(土) 午後1時30分~3時30分

会場: 報徳今市振興会館

定員: 20名(先着順) 参加費: お茶代200円

主催: NPO法人 なんとなくのひろば

共催: 日光市 後援: 日光市教育委員会

お問い合わせは「なんとなくのひろば」へ

☆ 活動日誌

- 10月12日(木) なんとなくのひろば 通信29号発行
- 10月14日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 10月19日(金) 報徳今市振興会館まつり実行委員会
- 10月23日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! ペペロンチーノ)
- 10月27日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 10月28日(日) ベリー会
- 11月 4日(日) 報徳今市振興会館まつり
- 11月 7日(水) 理事会(第48回)
- 11月10日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 11月12日(月) 茶話会(第36回)
- 11月18日(日) ベリー会
- 11月24日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 11月27日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! シチューパスタ)
- 12月 1日(土) ワカモノ・フェスタ前日準備
- 12月 2日(日) ワカモノ・フェスタ
- 12月 9日(月) 茶話会(第37回)
- 12月15日(土) ベリー会主催: ゲートキーパー養成講座(第1回)
- 12月21日(金) 学びクリスマス会
- 12月23日(日) ベリー会
- 12月25日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! サンドイッチ)
- 12月25日(火) 居場所関連打合せ
- 12月27日(木) 日光市教委へ「委託内容に関するメモ」提出
- 1月 9日(水) 理事会(第49回)



つくってたべよう! 11月27日、シチューパスタ



11月4日、報徳会館まつり
バザー(上)

「川むしたんけん隊」川虫の展示(下)

秋晴れの中、報徳今市振興会館まつり

「まつりをやろう!」と言い出したのは5月の定期総会の頃だったか。ずっとそのままになって、準備を始めたのが9月。10月になって実行委員会が立ち上がった。

建物の内外で催し物の配置を考え、食べ物提供を担当してくれた「はばたき」、「おおきな木」そして「市民活動支援センター」のみなさん、ステージ担当の「サムシング」、入り口の受付あたりに、突然出現した「子ども売店」、そして「なにわ」のバザー。「サイエンスひろば」を担当してくれた田原さん(宇都宮大)、塚崎さん(今市の水を守る市民の会)。自分たちの持ち場をしっかりと固めてくれた人たちの力で、イベントが成立した。

当日は晴天にめぐまれ、100人を越える参加者があった。「広い座敷にいと落ち着きますね」、「この建物を本当に壊してしまうのですか」という感想も。

参加してくれたみなさん、スタッフのみなさん、そして報徳今市振興会館に感謝です。(手塚)



入り口付近は子どもたちの売店

下野新聞(2012/11/5)より



関係者らでにぎわった報徳今市振興会館まつり

子ども連れなどで訪れた人たちは、趣ある建物の内や外で豚汁やコーヒーを味わいつつ、生演奏に耳を傾け、思い思いの時間を過ごしていた。

報徳会館閉館へ感謝込めまつり
【日光報徳今市振興会館まつりが4日、今市の同館で開かれ、秋晴れの中、関係者らがバザーや飲食、バンド演奏などを楽しんだ。同館は、二宮尊徳没

後100年の記念事業として1955年、元三菱銀行頭取で旧今市市の名誉市民加藤武男氏が寄付した邸宅を、今市報徳役所跡に移築して開館。現在の場所に計画される尊徳記念館などを備えた新施設の整備で、取り壊されて開かれた。

催しは、同館を管理するNPO法人おおきな木、館内で不登校の子ども支援活動を行うNPO法人など、関係する5団体が参加し、同館への感謝の気持ちを込めて開かれた。

る方針となっている。



こんな本はいかが？ その21 女性漫画家3人

今回は、女性漫画家3人の作品を紹介します。

「サザエさん」で、変わらぬ人気の長谷川町子さん。「小さな恋のものがたり」でデビューしたみつはしちかこさん。「毎日かあさん」で一躍有名になった西原理恵子さん。

◎ 何と言っても、「サザエさん」の人気はすごいです。現在も日曜日の夕方六時半からアニメ化された「サザエさん」が放映されていますが、かなりの高視聴率をとっているようです。アニメの方は、昭和30年代の雰囲気も出しつつ、現代の話題もさりげなく入れ込み、いつの時代にもありそうな家族の風景を見せてくれます。

昭和21年から朝日新聞に4コママンガで連載され、28年間続いたそうです。文庫版「サザエさん」が朝日新聞社から全45巻、出版されています。その他に 姉妹社発行の「よりぬきサザエさん」もあります。

◎ みつはしちかこさんも、朝日新聞の日曜版で20年ほど漫画「ハーイあっこです」を連載していました。あったかくてほのぼのとした作品が多いです。

「あした元気になあれ」(中央法規出版 1995)は、何気ない日常を綴ったエッセイです。みつはしさんの温かいまなざしがいっぱいほっとします。「チッチとサリー 初恋の四季」(学習研究社 2007)は二十数年ぶりに書き起こしたチッチとサリーの詩画集です。「初恋」のときめきがよみがえり、不思議な元気がわいてくるかも…。

◎ 西原理恵子さんは、現在、毎日新聞で漫画エッセイ「毎日かあさん」を連載中です。単行本も出ています。とにかく毒舌で飾らない。初めは嫌な感じを覚えますが、しばらく読んでいくと、「なるほどなあ！」とか「あるある！！」という気持ちになります。

「この世でいちばん大事な『カネ』の話」(イースト・プレス2012)は、子供向けに書かれた本です。西原さんの生い立ちのこと、描いてきた漫画のこと、アジアの国々のことなどを「カネ」をめぐる話として書かれています。ストレートな言葉がぐっと胸に迫ります。そして考えさせられます。

最新刊は「生きる悪知恵」(文芸春秋 2012)です。読んでみたくなる題名ですね。(白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会員について

正会員：46
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。今年度はとくに月～金の週5日居場所開設のため、必要経費が切迫しています。会員を継続し、応援よろしくお願ひします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

震災・原発事故からもうすぐ2年が経ちます。原発から拡散した微粒子や気体は大気の流れに乗り、放射能汚染を広げました。ヨウ素131やセシウム136など短寿命の核種はすでに崩壊。比較的寿命の長い放射性同位体、セシウム134(Cs134:半減期約2年)、セシウム137(Cs137:30年)が地上に残り、放射線を出し続けています■昨年5月に大沢で採集した「ワラビ」はCs134=72、Cs137=99(ベクレル/kg)でした。事故後ほぼ1年、Cs134のおよそ30%は崩壊したはずなので、この測定結果はベクレル数でほぼ同量のCs134、137が原発から漏れ出たという報告の証明になっています■今年の春にまた生えてくる「ワラビ」は何を示してくれるのか。地上や食品の放射能汚染について警戒すること、測定値に関心を持つこと、データにもとづいて議論し行動することを、今年も実践していきたいと思ひます。(T)